

文化財石垣保存技術協議会会報

令和4年(2022) 第27号 —令和4年度事業報告—

◇令和4年度総会が開催されました

日時 令和4年7月17日(日)

場所 日本城郭研究センター大会議室

来賓 小野友記子 文化庁文化資源活用課
文化財調査官

甲斐昭光 兵庫県教育委員会事務局

砂山雅昭 姫路市教育委員会

記念講演 『石工棟梁が語る伝統的土工技術と文化
財石垣修理への取り組み』

松本勝蔭(文化財石垣保存技術協会会長)

市川浩文(技術・研究会員)

主な議事 会則改正、役員改選、令和3年度事業報告・決算報告、令和4年度事業計画・予算案



松本会長への花束贈呈

—3期6年間にわたり、ありがとうございます—



和田新会長の挨拶

—和田新会長のもと、一丸となって頑張っていきましょう—

■文化財石垣保存技術協議会 評議員・役員

評議員

木越 隆三	金沢工業大学客員教授
北垣 聡一郎	石川県金沢城調査研究所名誉所長
北野 博司	東北芸術工科大学教授
千田 嘉博	奈良大学教授
高瀬 要一	財団法人琴ノ浦温山荘園理事長
田中 哲雄	日本城郭研究センター名誉館長
西形 達明	関西地盤環境研究センター顧問
麓 和善	名古屋工業大学名誉教授
三浦 正幸	広島大学名誉教授
宮武 正登	佐賀大学教授

役員

会長	和田 行雄	技能会員
副会長	會澤 敏夫	技能会員
	荻本 久	技能会員
	奥村 信一	技術・研究会員
監査役	佐藤 哲夫	技能会員
	橋本 孝	技術・研究会員
幹事	粟田 純徳	技能会員
	白石 建	技術・研究会員
	西川 禎亮	技能会員
	西田 勝計	技術・研究会員
	諏訪 匡	技能会員
	藤田 精	技能会員
	藤本 昇	技能会員
	水野 賀道	技能会員

オブザーバー

市川浩文	技術・研究会員
楠 寛輝	技術・研究会員
西田 郁乃	技術・研究会員
宮里 学	技術・研究会員

事務局

事務局長	増田 義樹
副事務局長	小柴 治子



記念講演 松本勝蔭氏・市川浩文氏

- ・肥前名護屋城跡を始めとする各地の文化財石垣の修理に関わられた松本勝蔭氏の石工職人としての人生、これまでの文化財石垣修理への取り組みについて、語っていただきました。

藤田 精(技能会員)

松本会長と市川浩文氏による記念講演がとてもおもしろかった。「石工棟梁が語る伝統的石工技術と文化財修理への取り組み」という題目でしたが、その中でも松本会長は、矢を自分で作り、矢穴技術を使用し、石を割る取り組みをされていた事に、私は感心しております。そしてまた、鍛冶という私の今のライフワーク・研究テーマにも伝統的石工技術として捉え、大切な取り組みであるという考えが、松本会長から伝わってきました。これからも石工の鍛冶での道具作り、メンテナンス、矢穴技法、加工など、もっと深く研究、探究していきたいと思えます。

小川 龍也(技能会員)

今回の技能者養成研修に参加させてもらって、この文化財石垣保存技術協議会の存在意義と役員の方々、名誉会員、特別顧問、顧問や参事の方々の文化財石垣を後世に残したいという熱い思いをひしひしと感じました。それは石垣だけでなく、先人の技術や知識、思いに至るまですべてを伝えていきたいということです。

自分たちの時代では、そのような仕事や技術にたずさわれることも少なく、経験の少ないものであったり、未経験の技術であったり、自分自身の経験値の向上になればと入った協議会でしたが、指導者を目指すべき立場となった今、より多くの知識や経験を積み、次の世代に残していけるようにしていきたいです。

松本会長と市川氏の記念講演も大変面白く参考になりましたし、カラーの写真はとても分かりやすかったです。

西田 郁乃(技術・研究会員)

総会記念講演会の松本会長のこれまでの取り組みを聞いて。

- ・修理する石垣の石積み施工方法等について、技能者の視点から様々な観察をされていた。それを積み直しの際に上手く反映されてこられた事がうかがえた。
- ・仕事でありながらも、その中に自己の興味や技能を追求しようとする姿勢には非常に感銘を受けました。
- ・修理工事は、それに関わった人たちの力をあわせて考えて進めていく事が大切という考え方は、文化財修理では重要な点ですが、技能者の方からそのような言葉が聞けたのは印象深かった。
- ・名護屋城の山里口の石垣修理工事のビデオ映像を見て、やはり動画の情報量は多く、撮影当時には意識していなかった、たまたま映り込んだ景色が現在では貴重な資料となるので、動画による記録もきちんとしておく必要性を感じた。

技能者養成研修（実技専門研修）大津

日 時 令和4年10月29日(土)～11月1日(火)
令和4年11月19日(土)～11月22日(火)

場 所 ヤマハマリーナ琵琶湖(滋賀県大津市)
研修生 技能会員9名(講師5名、事務局1名)
内 容 野面積み石垣の石積み実習



田淵 亘(技能会員)

【研修前半】

今回初めて参加させて頂きました。文化財石垣修復現場での経験は少々ありますが、いずれも解体・調査が主体であり、積みの作業は、ほぼ初めての経験でした。集合し開会のあいさつ、説明が終わると同時に研修生が、自分の持ち場にすばやく移動し、そして石を選別しワイヤーを掛け、作業開始から10分足らずで、石を積み上げていくスピード感到に圧倒されました。

これまで参加されていた研修生、講師の方々の石を選別する目、配置のコツ、石と石の合口の接点の関係など、わからないことばかりでしたが、皆さんに質問すると丁寧に解説、実技で実践して説明して頂き、大変わかりやすく把握できました。

栗石の並べ方、飼石の置き方なども研修の中で覚えながら、第2回の研修ではよりうまく出来るよう、又、将来実作業で即、施工できるように技術を身につけられるよう、取り組んでいきたいと思ひます。

【研修後半】

前回は継続参加されている研修生のスピード感と技術に圧倒されました。今回は少しでもそこに追いつくべくわからないところはわからないままにせず、見て聞いて覚えて持ち帰ろうと思ひました。

積み作業の中で重要な栗石、飼石の置き方、ワイヤーの掛け方などをしっかり覚えようと今回の目標として取り組みました。丸い石、三角の石など、ワイヤーの掛け方が難しい石の吊り方を教えてもらい、落下させる事故もなく置くことができました。

石材を据え付ける際、飼石を置くのに下の栗石をしっかりと並べておかないと、石材を置いた時に飼石が動き、石材も動くので、栗石の置き方も大変重要であることがわかりました。

短い研修の中で、様々な技術、施工法を目のあたりにすることが出来たことが大変重要な収穫となったと思ひます。その技術を実践、反復し、身につけ、後世の世代にも伝えられる様になれば良いと思ひます。

『文化庁日本の技フェア～文化財を守り続けてきた匠の技～』への参加

日時 令和4年10月22日(土)・23日(日)

場所 ベルサール秋葉原(東京都千代田区)

内容 協議会の活動紹介(パネル展示)



指導者養成研修

【第1回(姫路)】

期間 令和4年4月24日(土)

場所 姫路市立城郭研修センター

内容 令和4年度研修計画作成指導

【第2回(姫路)】

期間 令和4年5月8日(土)

場所 姫路市立城郭研修センター

内容 令和4年度研修計画作成指導

【第3回(東京)】

期間 令和4年6月25日(土)

場所 東京都 (株)文化財保存計画協会

内容 記録保存事業実施計画立案進捗状況の報告と指導

【第4回(姫路)】

期間 令和4年7月17日(日)

場所 姫路市立城郭研修センター

内容 記録保存事業実施計画修正内容報告と評価

■入会手続き

入会をご希望の方は、まず事務局にご連絡ください。当協議会の入会申込書を送付いたしますので、必要事項を記入のうえ、下記の事務局へご返送ください。

役員会にて会員資格審査後、入会通知書及び会費納入の振込用紙を送付します。年会費(4月～翌3月)をお振込いただき、事務局で正式に受理した日から本協議会会員として登録します。

■新規加入会員紹介(令和4年7月19日役員会審査)

会員区分	氏名	所属
技能会員	松山 周聖	(株)藤本石工
〃	浅山 太一	〃
〃	斎木 三男	斎木七郎石材本家
技術・研究会員	長野 誠明	(株)アコード
〃	沼田 修	(株)南建設
一般会員	林 政樹	(株)舟橋植木

■事務局からのお知らせ

事務局では「会員証明」の発行を行っています。業務などで必要な方は事務局まで発行をご請求下さい。

■文化財石垣保存技術協議会会員数

(令和4年7月15日現在)

技能会員	183名
技術・研究会員	120名
一般会員	47名
賛助会員	19法人
評議員	10名
合計	379名(法人含む)

発行年月日 令和4(2022)年11月30日

編集・発行 文化財石垣保存技術協議会

事務局住所 〒670-0012 姫路市本町68-258

日本城郭研究センター内

TEL 079-289-4877 FAX 079-289-4890